

EX STAGE 02,"愛を忘れた氷の王子"

話者	台詞 / ト書き
若者A	なにそれ？ 新しいデバイス？ ……あ、もしかしてシャティルの？
若者B	うん、そう。バイト代で買ったんだー。 この間のステージ見てからさ、 ずっと気になってたんだよねー。
若者A	あー、あれな。 オレも見てたよ。 ……で、どうなの？ 使い心地いい？
キョータロー	ちょっとごめんな。 そこ通してもらえる？
若者B	あ、すみませーん。 ……うん、私には結構合ってる感じ。 ACTのほうはこれから試すとこ。
キョータロー	(……シャティルのデバイスか。 思った以上に注目されてる感じだな)
	■ライブハウス
キョータロー	おーい、【ユーザー名】。 飯買ってきてやった……
キョータロー	うわ、なんだ？ なんの騒ぎだ、いったい。
イオン	あ、見てくださいキョータロー。 ユーザーさんへの取材や ステージの出演依頼がこんなに！
イオン	むふ……むふふ。 シャティル社の依頼を引き受けた効果が 早速現れてきましたね。
キョータロー	そういやさっきも外で、シャティル社の デバイス使ってるやついたな……。 この間のステージも見たってさ。
イオン	ふむ……。やはりこの依頼、 世間の注目度は高いようです。 負けられませんよ、ユーザーさん！
イオン	さあ、行きましょう。 既に次のステージの場所と時間は 指定されています。
キョータロー	い、今からかよ！ 飯、どうすんだ。 せっかく買ってきてやったのに。 ……ちょっと待ってば！
	■渋谷一街中ー
イムラン	やあやあ、ごきげんよう！ ごめんねー、またこんな所に 呼び出しちゃって。
マチス	……よう。
キョータロー	出たな、『記録係』と他一名。

イオン	む？ 見てくださいユーザーさん。 ネットで情報を拾ったギャラリーが もうあんなに集まっています。
マチス	このぐらいいは集まってもらわなきゃ こっちも困るんでね。 ……じゃあ、始めようか。
イシュ・ゼム	我が吐息に抱かれ、凍土と化せ！
キョータロー	……つとお、出たな。 こいつもアレか、『プラナ・カハーニー』 シリーズってやつか？
イムラン	彼はイシュ・ゼム。 魔法で生み出す凄まじい冷気を 自在に操る、氷の王子……。
イオン	ふむ……wiz-domを検索しましたが、 『イシュ・ゼム』、『氷の王子』という ワードに該当するキャラはいませんね。
イムラン	『雪の女王』さ。 アンデルセンだよ。
イムラン	悪魔の作った鏡の破片が、目と心臓に 突き刺さった少年は、優しい性格が 醜く歪んでしまう……
イムラン	そんな彼を見初めた雪の女王は、 彼の心を凍りつかせ、記憶を封印して 自分の息子としてはべらせるんだ。
イオン	ふむふむ。……ですが原典の童話では 幼なじみの少女の献身によって、 鏡の破片は溶けるとありますが？
キョータロー	……なんだ、じゃあそいつは 『氷の王子』じゃなくなっちゃうんじゃ ねーか。
イムラン	それじゃちよっと面白くないじゃん。 イシュ・ゼムはね、その少女の献身で 救われなかった少年の姿……。
イムラン	凍てついた心の中に、かすかに残る 少女の温もりに戸惑いながら、 永遠に己を探し続けるんだ。
イムラン	……そういう、物語における『アナザー エンディング』の可能性を具現化した 存在なんだよ。
キョータロー	……だ、だいぶ『盛って』きてんな。 そんなの有るかよ。
イオン	ふむ。実に面白いですね、 ユーザーさん。シャティル社の技術は、 想像以上に異質なもののようです。
イオン	原典を持つActに対して、これほど 独自の『解釈』を与えて、ある種 別の存在に変貌させる……
イオン	その結果がどうなるのか…… わたしにも予測できません。
マチス	キミのACTの言うとおりでだよ。 俺も、こいつがどれほどの力を 持っているのか、まだわからないんだ。
マチス	だから……それをキミ相手に 試させてもらいたいわけさ。
キョータロー	くそつ。 これじゃプロモーションの手伝いって 言うより、実験台って感じじゃねえか。
イオン	それが、ユーザーさんの英雄としての 成長に繋がるのなら、 実験台、むしろ望むところです。
マチス	……ふん、そこまで言うなら 本当に遠慮なくやらせてもらおう。 さあ……行くぞ！

話者	台詞 / ト書き
	//イシュ・ゼムとのバトル
イシュ・ゼム	戦いはいつも俺の心を 少しだけ熱くする……
マチス	まずはこちらからだ。 やるぞ、イシュ・ゼム！
イシュ・ゼム	凍てつく刃よ！
イオン	むう……さすがはシャティル社の スペシャルなACT。 並のACTとは違いますね。
イオン	でも、ユーザーさんの力は 決して彼らに負けません。
	//イシュ・ゼムとのバトル終了

話者	台詞 / ト書き
マチス	……くうっ！ ……負けたよ。 本当に強いな、キミは。
イオン	当然です。 ユーザーさんは レイヤードの英雄ですから。
イムラン	『英雄』？ ……へー、面白いね。 なんかキミ個人にも興味が出てきたよ。
イムラン	でもまあ、今日はここまでしておくね。 ……いやー、今回も見ごたえのある バトルだったよ。
イムラン	ヴァルナカウンターにおけるUNPLの 上昇もほぼ見られない。多くの人が このステージに満足した証拠だね。
キョータロー	つまり、あんたらの 思惑どおりってわけだろ？
イムラン	まあ……そうだね。 ほら、ちゃんとやらないと ボクも怒られちゃうんで。
イムラン	ミヤコ、知ってるでしょ？ 怒ると怖いんだよねー……。
マチス	おい、やめといたほうがいいぞ。 ここでの会話、全部オフィスに 筒抜けなんじゃなかったか？
イムラン	……あ。やば。 えっとー……じゃあ、ボク達、 会社に戻らないといけないんで！
イムラン	次もスゴいの用意しておくから！ 引き続きよろしくね！
マチス	……じゃあな。 楽しかったよ。
イオン	むふ。『スゴいの』ですか。 ますます楽しみになってきましたね、 ユーザーさん！
	■シャティル社 - 特別戦略室 -
ミヤコ	……お早いお戻りで。
イムラン	や、やあミヤコ。 ……げ、元気？
マチス	言わんこっちゃない。 ……悪いが、俺は休ませてもらうよ。 さすがにちょっと疲れた。
イムラン	ええーっ。そんなー。
ミヤコ	お疲れ様でした、マチスさん。 ……それと、申し訳ありません。
マチス	なんであんたが謝る？

ミヤコ	……契約とは言え、損な役割を押し付けてしまっているの。
マチス	気にするなよ。 俺はこれでも、案外楽しくやってる。 ……本当だ。
マチス	俺の国にいたら、あんなに熱いバトルはまだまだできそうにないからな。 ……じゃ、お休み。
イムラン	……彼は、いいやつだね。
ミヤコ	そうですね……。 ステージに立つ以上、誰だって本当は勝利を望むはずですから。
イムラン	だよな……。うーん、 さすがにこれからもマチス君だけに甘えるわけにはいかないか。
イムラン	ミヤコ、頼んでいた件はどんな感じ？ なんとかなりそう？
ミヤコ	すでにピックアップは完了しています。 あとはイムラン様のご指示があればすぐにでも……。
イムラン	オッケー。 それじゃあすぐに進めて。
イムラン	【ユーザー名】くんの 実力は、本物だよ。 しかも、まだまだ成長しそうだし。
イムラン	彼に立ち向かうためには…… ちょっとズルいけど、こっちは『チーム戦』でいかせてもらおう。